

「チャシコツとメム」

今回は、掲載地図の「メム(mem泉池)」で
の犬による秋味(鮭)捕獲のエピソードを
紹介した。

この「メム(mem泉池)」は、明治二十三年
に旭川を調査した永田方正の『北海道蝦
夷語地名解』では、「チャシコツの上にあ
り」と書かれている。掲載地図の「チャシ
コツ(Casi-kot砦跡)」は、宮下通り三
丁目から五丁目にかけて高台になってい
て、ここはアイヌの「メツチルイの悲恋の
伝説のあるチャシコツであった(昭和六
年、近江正二『伝説の旭川及其附近』。ま
た、このチャシコツは、和人からは「義経
台」と呼称されてもいた。ここに明治二十
六年七月に上川神社が創建され、明治三
十二年七月に移遷する。移遷の理由は、当
該地が、官設鉄道・上川線(現・JR函館本
線)の敷設のためであった。以上が、「チャ

シコツ(Casi-kot砦跡)」の歴史であ
る。

さて、掲載地図の「メム(mem泉池)」につ
いて、荒井源次郎翁はアイヌ語地名研究
家の山田秀三氏に、次のように答えてい
る。

旭川のメム(旭川駅の附近)の人たち
が、雨竜や天塩の方に熊を、北見の方
に鹿をとりに出掛けていった。日高の
人たちもよく熊とりに来ていたが、こ
ちらからは行かなかった。羽幌にもイ
ウオロ(IWOR 狩場)があったという。

右の文章は、昭和五十五年発行の『北海道の文化』
に掲載されたものである。
写真は、右の同行記の中の
もので、右が明治三十二年
生まれの山田秀三氏、左が
明治三十三年生まれの荒
井源次郎翁である。
昭和六十一年に、筆者も
同じ状況で、右の「メム(mem泉池)」の話
を聞く機会があった。山田秀三氏が「初山
別」の地名起源を調査するのと同行し、初
山別からの帰途、霧立峠と
江丹別峠を経由して、旭川
市近文の荒井源次郎翁宅を
訪ねた時には、ほぼ同じ話を
聞くことが出来た。

荒井源次郎翁は、「メム(mem泉池)」の位置を「チャシ
コツの上」というよりも、石
狩川左岸で、旭川駅近く
と大雑把に把握しているよ
うに思われた。

松浦武四郎は、前回紹介
したように、安政五年(一八
五八年)の報文日誌の「東部
登加智留宇知之誌」で、「上
川は其魚(鮭)の多きこと筆



山田秀三氏(右)と荒井源次郎翁

市近文の荒井源次郎翁宅を
訪ねた時には、ほぼ同じ話を
聞くことが出来た。
荒井源次郎翁は、「メム(mem泉池)」の位置を「チャシ
コツの上」というよりも、石
狩川左岸で、旭川駅近く
と大雑把に把握しているよ
うに思われた。

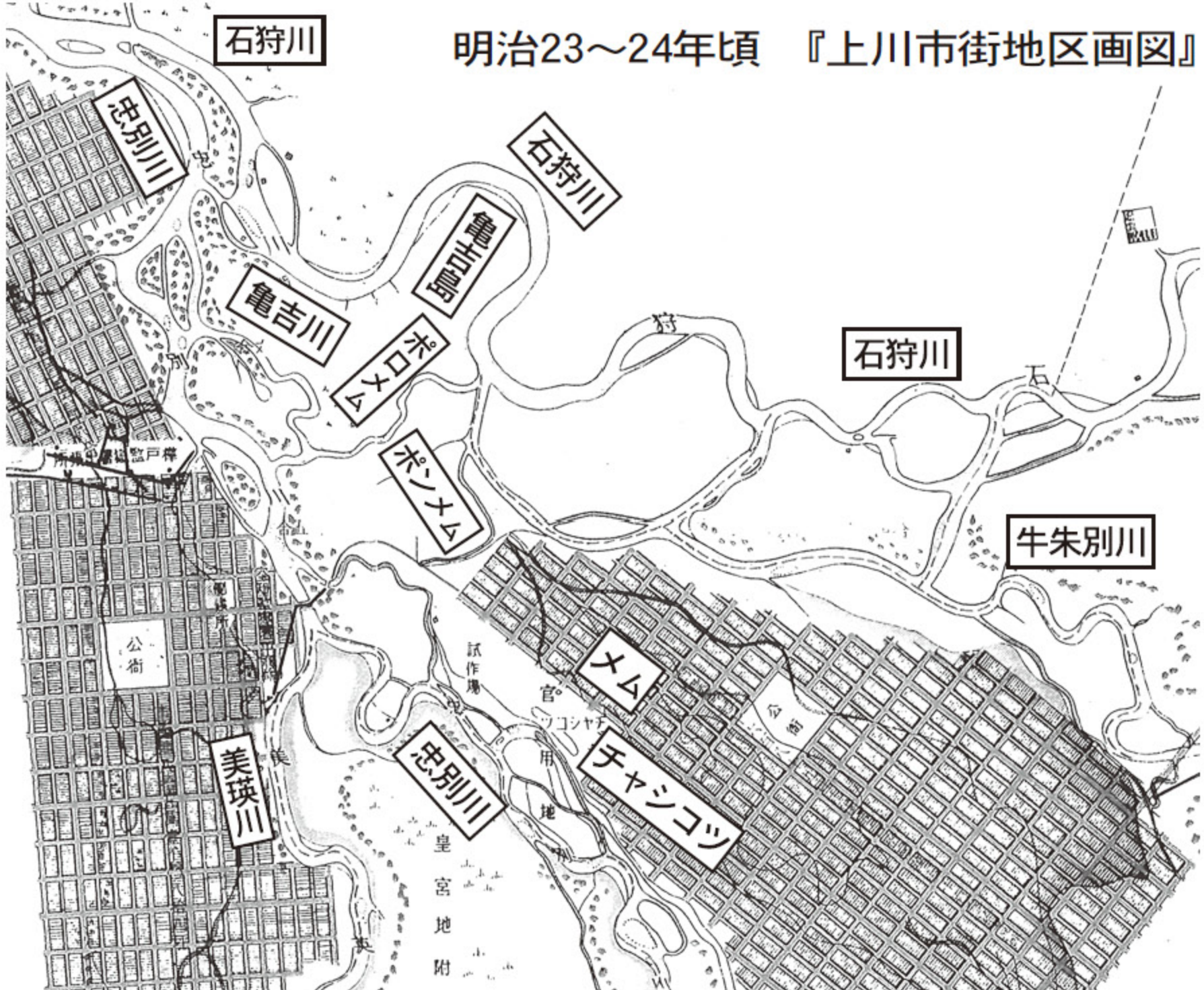
ただし、石狩浜の場所請負制度の悪政に
よって、それぞれが故郷に帰り、しかも
上川のアイヌの人たちも、三分の一はト
カチの山へ逃避している」と、松浦武四
郎は長嘆息している。

(アイヌ語地名研究会幹事)
※毎月第一週号に掲載します

断章 旭川のアイヌ語地名研究

153

高橋 基



明治23~24年頃 『上川市街地区画図』